

## トラック輸送情報（平成24年1月分）

平成24年4月6日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報政策課 交通統計室

担当：中倉 内線28721

直通：03-5253-8347

ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

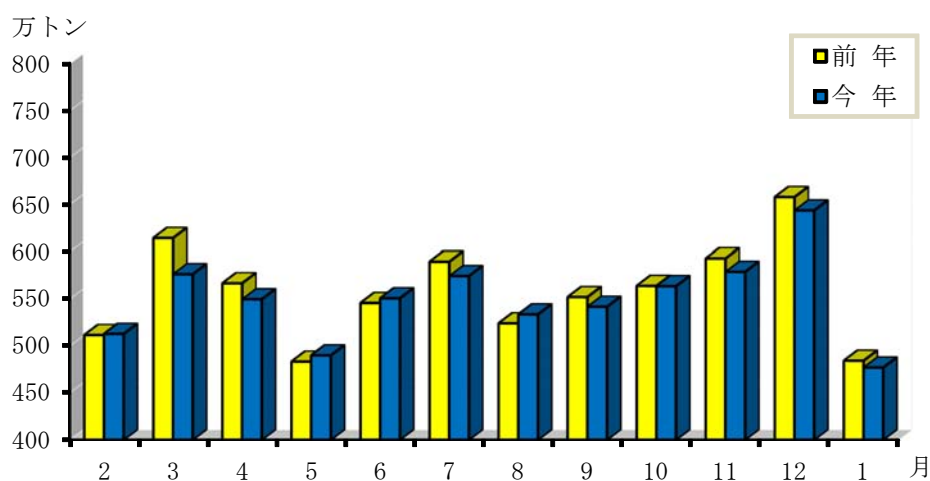
### 1. 特別積合せ貨物

#### (1) 本月の概況

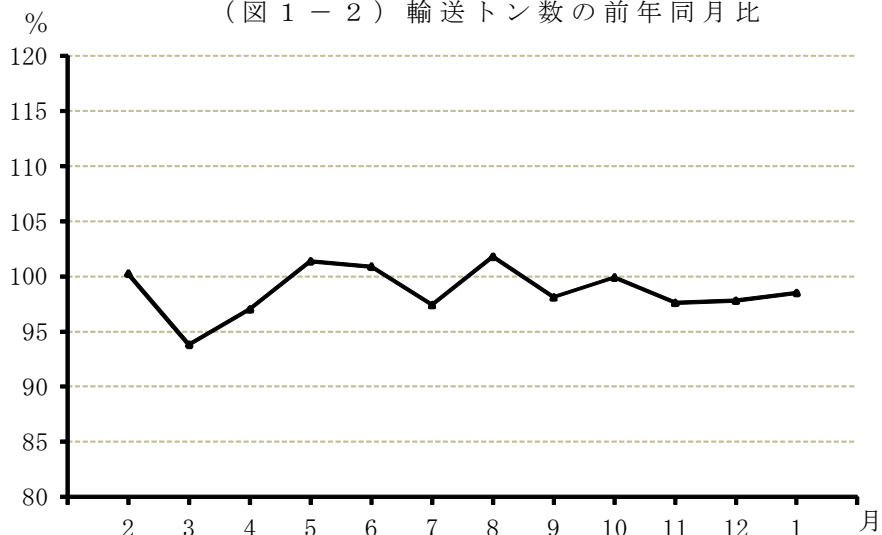
調査対象26社の本月の輸送量は、4,772,582トンで、前月と比べ総輸送量が約167万トン減少したため、前月比74.1%（季節調整済み103.2%）となり、前年同月との比較では、約7万トン減少したため、前年同月比98.5%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は20.4日で、前月と比べ1.6日減少し、前年同月との比較では、1.4日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、233,950トンで、前月と比べ約59千トン減少したため、前月比79.9%となり、前年同月との比較では、約12千トン増加したため、前年同月比105.3%の実績であった。

（図1-1）輸送トン数の推移



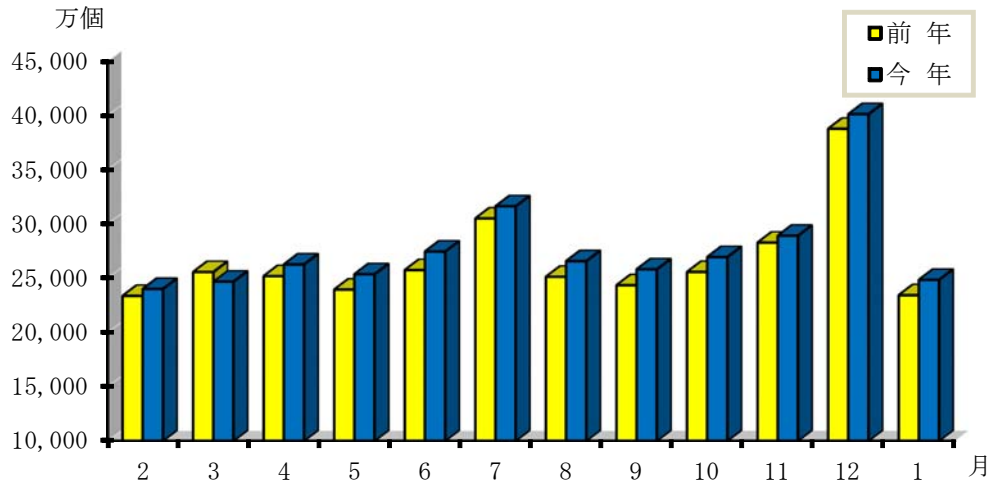
（図1-2）輸送トン数の前年同月比



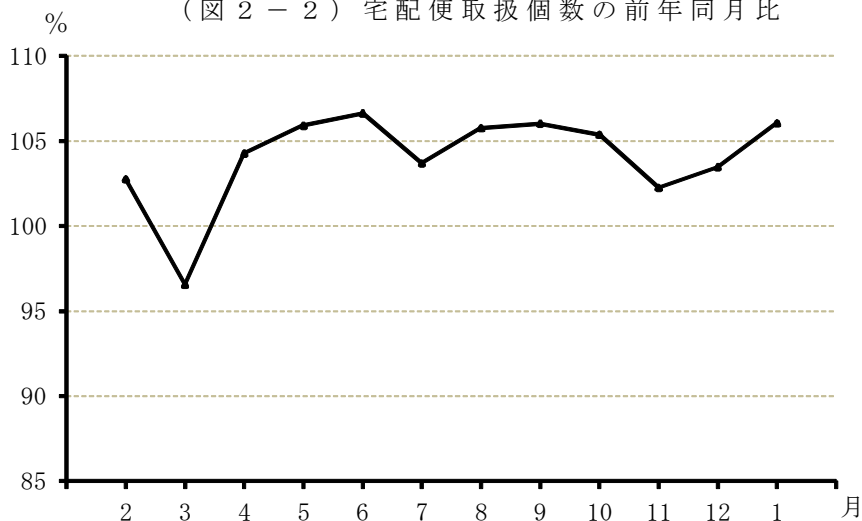
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、248,651 千個で、前月と比べ 約 15,266 万個減少したため、前月比 62.0% (季節調整済み 107.5%) となり、前年同月との比較では、約 1,416 万個増加したため、前年同月比 106.0% の実績であった。(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 27 社(26 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社)の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、すべての品目で、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。減少要因としては、工場・生産地からの貨物減がすべての品目に共通して見られたほか、倉庫から出る貨物減が「機械」、「化学工業品」、「繊維工業品」、「食料工業品」、「日用品」等で見られた。「機械」、「化学工業品」、「繊維工業品」、「食料工業品」の主な減少地域は関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方等であった。

前年同月と比べると、工場・生産地からの貨物増が「果物」で見られた。主な増加地域は、中国であった。一方、工場・生産地からの貨物減が「化学工業品」、「繊維工業品」、「食料工業品」、「日用品」等で見られた。主な減少地域は関東、北陸信越、中部地方等であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数			主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因			
	著 増	変 ら ず	著 減						
前 月 に 比 べ て	農水産品		11	5	2	野菜、果物、その他の農産品	九州	4, 8	
	金属製品		13	8			関東地方、北陸信越、中部、近畿	4	
	機 械		11	8	2	機械部品、その他の機械	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方	4, 7	
	化学工業品	1	7	13	1	合成樹脂、その他の化学工業品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7, 8	
	繊維工業品		13	9		その他の繊維工業品	関東地方、中部地方、近畿地方、中国	4, 7, 8	
	食料工業品		7	8	5	製造食品、飲料	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、福岡	4, 5, 7, 8	
	日 用 品	1	5	13	3	書籍・印刷物、衣服、その他の日用品	北海道、東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、九州、全国	4, 5, 7, 8	
	そ の 他	1	9	6	6	宅配便、その他(百貨店配送品)	神奈川、関東、大阪、全国	4, 5, 8	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	3	2	10	2	1	果物	中国	4
	金属製品		4	15	2			関東	
	機 械		5	11	4	1		東北、関東地方、北陸信越、中部、兵庫	9
	化学工業品		3	14	5		その他の化学工業品	関東	4
	繊維工業品		2	15	5		その他の繊維工業品	神奈川、中部地方、中国	4
	食料工業品		3	13	2	2	製造食品	関東、北陸信越、福岡	4
	日 用 品	1	3	9	8	1	書籍・印刷物、衣服、その他の日用品	関東地方、北陸信越、九州、全国	4, 5, 9
	そ の 他		2	10	6	4	宅配便、その他(百貨店配送品)	東北、神奈川、関東、大阪、中国、全国	2, 4, 5

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者 793 社／調査対象事業者数 1,049 社）の輸送量は、前月比 86.5%、前年同月比 99.8%であった。

### (表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	99.8 %	102.0 %	101.9 %	100.7 %	99.3 %	99.7 %	94.3 %	99.3 %	100.2 %	95.7 %	107.1 %	
前 月 比	86.5 %	84.4 %	85.4 %	90.8 %	83.9 %	92.6 %	84.7 %	86.5 %	86.7 %	87.9 %	90.7 %	

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比84.4%、対前年同月比102.0%であった。品目別では、季節的需要増等により「廃棄物」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、季節的需要減等により「野菜・果物」、「水産品」、「木材」、「砂利・砂・石材」、「セメント」、「食料工業品」、「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。また、工場・生産地からの需要減等により「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比85.4%、対前年同月比101.9%であった。品目別では、季節的需要減等により「野菜・果物」、「セメント」、「食料工業品」、「取り合わせ品」が、商社・問屋からの貨物減等により「穀物」が、降雪等の天候の影響等により「砂利・砂・石材」が、景気の影響等により「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比90.8%、対前年同月比100.7%であった。品目別では、「揮発油」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「鉄鋼」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比83.9%、対前年同月比99.3%であった。品目別では、景気の影響等により「砂利・砂・石材」、「その他の窯業品」が、天候の影響により「野菜・果物」が、輸出入の貨物減等により「機械」が、季節的需要減等により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比92.6%、対前年同月比99.7%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「水産品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「野菜・果物」が、輸出入貨物の減等により「金属製品」が、景気の影響等により「機械」が、工場・生産地からの貨物減により「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比84.7%、対前年同月比94.3%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物減等により「野菜・果物」、「機械」、「その他の窯業品」、「紙・パルプ」が、景気の影響等により「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降については増加傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比86.5%、対前年同月比99.3%であった。品目別では、降雪等の天候の影響等により「その他の農産品」、「砂利・砂・石材」、「その他の窯業品」が、季節的需要減等により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月は増加傾向、以降についてはほぼ横ばいが予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比86.7%、対前年同月比100.2%であった。品目別では、季節的需要減等により「野菜・果物」、「食料工業品」が、工場・生産地からの貨物減等により「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比87.9%、対前年同月比95.7%であった。品目別では、天候の影響等により「野菜・果物」が、季節的需要減等により「穀物」、「鉄鋼」、「機械」、「食料工業品」、「日用品」が、建設関連の需要減等により「セメント」が、工場・生産地からの貨物減等により「その他の製造工業品」が、商社・問屋からの貨物減等により「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の見通しについては、次月は減少傾向、以降については増加傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比90.7%、対前年同月比107.1%であった。品目別では、輸出入の貨物増により「木材」、「金属くず」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「穀物」、「機械」、「日用品」が、工場・生産地からの貨物減等により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		増	減	海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増	1												1
	減		2		1							2	1	6
2. 野菜・果物	増									1		1		2
	減	4	3		2	1	2	1	3	5				21
3. その他の農産品	増	1				1								2
	減	2							2					4
4. 畜産品	増													
	減		1											1
5. 水産品	増					1								1
	減	3	1		1					1				6
6. 木材	増	1	3		1	1				1			1	8
	減	4	4		2					1	1			12
7. 薪炭	増													
	減													
8. 石炭	増													
	減													
9. 金属鉱物	増											1		1
	減													
10. 砂利・砂・石材	増	3	1									2		6
	減	5	4		2	1			3			2		17
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1		1				1	1	1			6
	減				1									1
12. 鉄鋼	増										1			1
	減			1	1				2		2	1		7
13. 非鉄金属	増		1		1				1					3
	減				1		1				1			3
14. 金属製品	増		2	1	1		1	1					1	7
	減	1	1	1	2	2	1	2	1	1	1	1		13
15. 機械	増		1			1					1			3
	減	1	1	1	3	3	3	2			2	1		17
16. セメント	増				1									1
	減	5	3						2		4			14
17. その他の窯業品	増				1									1
	減	1			3	1	1	2			1			9

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増			2								2
	減				1				1			2
19.その他の石油製品	増	3	1		2							6
	減	4	2		2		1	1	1			11
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減											
21.化 学 薬 品	増							1				1
	減	1					1					2
22.化 学 肥 料	増		1		1				1			3
	減				1							1
23.その他の化学工業品	増				1			1				2
	減				1	1		2		1		5
24.紙 ・ パ ル プ	増	1	1		2			1	1	1		7
	減	2	2			1	2		3	1	1	12
25.織 維 工 業 品	増				1							1
	減								1			1
26.食 料 工 業 品	増	1	1	2			1	1				6
	減	3	5	1	5		1	6	3	5	2	31
27.日 用 品	増		1	1								2
	減	2	2	1	2		2	1		5	3	18
28.その他の製造工業品	増			1					1			2
	減	1	1	1			1	1	1	4		10
29.金 属 く ず	増										1	1
	減											
30.その他のくずもの	増							1			1	2
	減											
31.動植物性飼・肥料	増	1							1			2
	減	3	3							4		10
32.廃 棄 物	増	22										22
	減	2	1					1				4
33.輸 送 用 容 器	増											
	減				1			1	1		1	4
34.取 り 合 せ 品	増							1				1
	減		3					2	1			6
35.そ の 他	増		2		2		1	4				9
	減		2	3	2		3	8	1			19